

参加費  
無料

3月7日  
(日)

10時～13時 終了予定  
CHhom東京校ライブ  
各校中継+ご自宅配信

えらいこっちゃ!  
こっちゃ!

# 「5Gと健康問題」

## 全国オンライン勉強会



講師：由井寅子

〈ホメオパシー博士・CHhom学長  
日本豊受自然農代表・百姓〉

自然療法家の立場から電磁波、4G、5G問題の  
大事なポイントと解決策について

講師：加藤やすこ

〈いのち環境ネットワーク・代表〉

- 一、5Gのしくみ、ミリ波の影響
- 二、日本の規制値の高さと、規制を厳しくする国
- 三、海外の研究で報告されている健康や環境への影響と対策
- 四、国内外の反対運動や計画中止させたケース
- 五、各地の5G規制条例制定の動き
- 六、電磁波過敏症などへの健康障害への対策について



講演後に  
パネルディスカッションを  
開催!



とらこ先生の「コロナを越えてタブーを越えて」この時代を生き抜く、10の講座

★「スマホアプリ」「とようけTV」からダウンロード視聴可能です

第6回  
講座  
配信中

～裏面の「危険な5Gから身を守るためには？」も、ご参考ください～

<3月7日(日)勉強会のお申込みはスマホ、パソコンで!!>

ご希望の参加形態をお選びいただき、それぞれのQRコードを読み取り、お申し込みください。

会場参加の  
方はこちら

ライブ：東京  
中継：札幌・名古屋・大阪



参加費  
無料

\*学生は、CHhom各コース学生、JPHF認定インチャセラピスト、  
JPHF認定ファミリーホメオパス、JPHMA会員

※推奨ブラウザ：  
Google Chrome



自宅受講の  
方はこちら

一部、ブラウザの設定やバージョンアップ等が必要な場合がございます。ご了承ください。

【特記事項】CHhom東京校での子連れ対応は行っておりません。ご了承ください。お子様(小学生以下・無料)連れOKです。お子様連れの場合は、事前に年齢と人数もお申し出ください。お子様連れでご参加の方は、別室での受講になります。同室の場合でも、お子様の状況によっては、一時退出していただく場合がございます。また、セミナーを開催する事情により、講師の変更や、時間の変更、内容の変更等が生じる場合がございますので、あらかじめご了承願います。日程、講演時刻、天候による交通機関の影響などで、変更することもございます。お申し込みの際は、必ずご連絡先の電話番号を申込書に記載いただきますようお願いいたします。

LINE「ご来校ありがとう500円割引クーポン」対象講演。CHhom各校の講演会ライブ会場ご参加費でご使用いただけます。お買い物にはご使用できません。



一般財団法人 日本ホメオパシー財団認定 ホメオパシー統合医療専門校

カレッジ・オブ・ホリスティック・ホメオパシー

CHhom東京校

TEL: 03-5797-3250 / FAX: 03-5797-3251

〒158-0096 東京都世田谷区玉川台2-2-3 矢藤第3ビル



CHhom札幌校

TEL: 011-633-0577 / FAX: 011-633-0578

CHhom名古屋校

TEL: 052-533-0171 / FAX: 052-533-0172

CHhom大阪校

TEL: 06-6368-5355 / FAX: 06-6368-5354

お友だち登録で最新情報をゲット!

# 危険な5Gから身を守るには？



世界中で30万人を超える医師や科学者、技術者らが、5G導入に反対する国際アピールに賛同署名をしています。5Gにはどんなリスクがあるのでしょうか？

## 5Gで被曝量が劇的に増加

5Gでは今までよりも高い周波数を使うので、電波が届く距離が短くなり、「スモールセル」と呼ばれる、狭い範囲をカバーする基地局をたくさん設置しなくてはなりません。EUの報告書では、20~150mごとにスモールセル基地局が必要だとされていて、海外では「安全に歩けなくなる」と反対運動が起きています。

しかもスモールセル基地局は、街灯や電柱など、高さ2~3mの場所に設置されるので、住民や歩行者は近距離で被曝することになります(写真)。

また、超高速・大容量通信ができるように、ユーザーに向けて電波を集中させる「ビームフォーミング」という新技術は、被曝量を大幅に増やします。



住宅地に設置されたスモールセル基地局

## 監視社会の強化につながる？

5Gは、1km<sup>2</sup>あたり100万台ものセンサーや端末を同時に接続できます。解像度の高い監視カメラの映像を一元管理し、不審者の割り出しに利用することも計画されていますが、個人情報も適切に守られるのか懸念されています。

## 5G電磁波を防ぐには

無線周波数電磁波を遮蔽するシールドペンキや、金属製の防虫網戸などを使って自宅の被曝量を減らすことができます。加藤やすこ著『5Gクライシス』(緑風出版)では、具体的な電磁波対策を紹介しています。

電磁波対策によって自宅を安全な環境にできたとしても、屋外では、安全性が立証されていない電磁波に近距離で被曝することになります。日本でも、5G基地局が住宅地や学校や子どもの遊び場、病院周辺に設置されないよう、条例などで規制する必要があります。

発行：いのち環境ネットワーク  
<https://www.ehs-mcs-jp.com>

## 5G電磁波のリスク

携帯電話が普及するにつれて、携帯電話基地局周辺では、頭痛や睡眠障害、耳鳴り、めまい、吐き気、集中力や記憶力の低下を訴える人が増えていきました。疫学調査によって、このような体調不良を訴える住民の割合が、基地局周辺では統計学的に有意に高いことが、各国で報告されてきました。

5Gで使われるミリ波は皮膚に強く作用して皮膚がんや目の損傷を増やすだけでなく、皮膚の血管など周辺組織にも作用し、その影響は全身におよびます。遺伝子発現の変化、酸化ストレス、内分泌系や神経系に悪影響を与えることが報告されています。オランダ保健審議会は安全性が確認されるまで、5Gミリ波を利用しないよう勧告しました。

## 自閉症の子どもが増える？

ワシントン州立大学名誉教授のマーティン・L・ポール博士は、5Gによって皮膚がんや失明が増えるほか、男女共に生殖能力が減少して不妊症や流産が増え、自閉症で生まれる子どもが2人に1人か、それ以上に増える可能性を指摘しました。さらに昆虫や両生類、鳥類、動物も影響を受けるほか、植物が乾燥して山火事が増える、と警告しています。

## 5G導入の一時停止を決定

ベルギーのブリュッセル首都圏地域では、周波数1800MHzについて19.2μW/cm<sup>2</sup>を上限とする厳しい規制をしてきました。5Gを導入するために携帯電話事業者が規制緩和を求めましたが、フレモール環境相は「市民はモルモットではない」と、2019年4月に拒否しました。スロベニアは「安全性が立証されていない」と、5G導入を禁止。イタリアでは500自治体、アイルランドでは20自治体、イギリスでは10自治体が5G基地局の設置禁止や一時停止を採択。スイス環境庁は、5G基地局の使用停止を各州に通達しました。アメリカでは、住宅地にスモールセル基地局を設置しないよう、条例で規制する自治体が増えています。



世界各地で5G反対デモが発生。写真はオランダ、アムステルダムで行われたデモで約1000人が参加(撮影: Sodus Vita)

## 国の指針値以下だから安全？

世界保健機関の国際がん研究機関(IARC)は、携帯電話やWi-Fi、テレビ、ラジオなどに使われている無線周波数電磁波には、「ヒトに対して発がん性の可能性があるかもしれない」と2011年に評価しました。

国際的な学会の一部門、国際非電離放射線防護委員会(ICNIRP)は、携帯電話などの周波数1800MHzについて900μW/cm<sup>2</sup>を上限としていますが、日本とアメリカはそれを上回っています。カナダも以前は日米と同じでしたが、2015年に439μW/cm<sup>2</sup>へ改定しました。フランスの指針値はICNIRPと同じですが、パリは独自に6.6μW/cm<sup>2</sup>に厳しく規制し、欧州評議会(CoE)は暫定的に0.1μW/cm<sup>2</sup>、将来的には0.01μW/cm<sup>2</sup>にするよう加盟47か国に勧告しています。

